

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成26年2月17日発行

発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.17

永福
だがしや楽校を開こう!

活動から得たことを考え深める

2月3日
月曜コース

過去・現在・未来の活動に向けて



◆子どもの頃をふりかえり、現在と接続する

今回の講座は、回想法(※)という手法で子どもの頃をふりかえり、これからの活動のヒントをグループで話しながら探ることから始まった。さてなぜ子どもの頃をふりかえるのだろうか。その答えは、「幼年時代の思い出から得た神聖で貴重なものなしには、人間は生きてゆくこともできない」という19世紀の小説家、ドストエフスキーの言葉にある。この講座は、イベントを開催することだけが最終目的ではない。イベントも含めた社会・地域生活でより良く生きるためにはどうしたらいいのか、その各々の気づきを大切にする講座だ。子どもの頃の良さ・悪さを改めてふりかえることで、これからの生活をより良く生きるヒントを見つけることができるというわけだ。

右は、受講生がふりかえった中で出てきたキーワード。現在とくらべて、自然体験や地域の大人とふれあう機会が多かったようだ。

●銭湯があった／●人情が濃かった／●酒屋のおじさん、店の前に漫画を描く／●暗くなるまで、夕飯まで遊んだ／●ペーゴマ怪我で禁止／●大人も子どもも笑った／●駄菓子屋、へび玉／●都電が走っていた／●夜店／●雑誌の付録販売／●かぶと虫取り／●秘密基地／●子どもの頃の遊び(石けり、ケンケン、ゴム跳び、缶蹴り、ビー玉、お手玉、数珠玉、鬼ごっこ、花いちもんめ、おはじき(椿の実)、川遊び、ままごと、着せ替え遊び)／●大人が色々な事を教えてくれた／●駄菓子屋火つけ事件／●野山を駆け回った／●魚屋が減った／●日曜学校／●子ども会／●子どもが魚を切り身で描いてビックリ／●焼き芋

※回想法とは…

アメリカの精神科医ロバート・バトラが創始した心理療法。人生の思い出等をグループまたは1対1になり、相手を受け容れ、共感しながら聴き合うことで人生の再評価や自尊心の回復、効果がある。またこれからの生き方を見つめる機会として講座等で行われることも多い。

◆話はふくらみ、具体的なことへ

後半は、前回フィールドワークを行った和泉仲通り商店街でののだがしや楽校開催に向けての話し合い。せっかくやるなら成功させたい、と活発な意見が交わされた。開催日は商店街のスタンプラリーと同日程を予定しているが、「私たちの『自分みせ』もスタンプラリーに組み込んでもらえないかしら」という意見や「土曜日開催だと近くのデイサービスの駐車場は使えない」、「学校も土曜授業が始まりますね」という意見が交わされた。

話し合いを聴いていて、自分も楽しく、地元の方も楽しい、そんなのだがしや楽校を目指されているように感じた。(坂本)

コラム～コトバを語る

このコラムでは、講座に関連するキーワードについて経験や思い出、自分なりの定義を、受講生自身の言葉で語ってもらいます。第7回目は、鎌塚さん。

キーワードは、【お菓子】

駄菓子屋さんのお菓子。子供のお小遣いで買って、お腹も心も満たすもの。

そんな、気持ちがほっこりするお菓子は大人にだって幸せなおやつとの時間を与えてくれる。「心を満たす、幸せな時間」それが私の一番のお菓子。

